

[1] 次の文章をよく読み、後の各問いに答えなさい。(出題の都合上一部を変更しています)

音楽の楽典では、音楽を作り出す要素として、リズム、メロディ、ハーモニーという三つが最も大事な要素であると説明されている。確かに、それは正しい。(a)、これはあくまで西洋音楽的な意味での音楽に通用する説明であって、地球上のすべての民族がこれまでに発明してきた音楽すべてを説明するととなると、これだけではいささかことば足らずの面がある。

アフリカのたくさんの部族が持っているドラム音楽は、基本的にリズムとメロディが一体化している。どこまでがリズムでどこまでがメロディとはメイカクに線引きできないような音楽なのである。日本の三味線音楽に、西洋音楽でいう「ハーモニー」という考え方は存在しない。三味線音楽だけでなく、日本の伝統音楽にはリズム、メロディ、ハーモニーという考え方は元からないのである。(b)、どんな民族にも音楽のルールはある。でも、それは、それをどこでどういう風に、どんな意味で演奏するべきかというルールであって、西洋音楽のようなリズム、メロディ、ハーモニーといった理路セイゼンとした科学的なルールではない。だからこそ、民族音楽は、民族という枠を出ることはなかったのである。

西洋クラシック音楽がここまで世界的に発達してきたのは、そこに一定のルール、つまり音楽理論があったからこそ。口伝えでしか音楽を教えられないシステムでは、到底広い地域に広まっていくことはあり得ない。日本の伝統音楽のほとんどが師匠から弟子への「ケイトウ」のみの伝承でしか伝わってこなかったことは、そのソウホウの広がりという意味ではけっしてプラスではなかった。(c)、三味線や琴、尺八などの伝統音楽にもっと理論的なルールが存在していたら、(d)、もっとわかりやすい楽譜が存在していたら、その音楽は、今よりもっとポピュラーなものになっていたに違いないと誰もが考える。しかし、西洋音楽には、合理的な音楽理論も、わかりやすい記号としての楽譜もあった。(e)、これほどまでに世界中の人々に親しまれる音楽になったわけなのだが、そこで、また新たな疑問が湧いてくる。

音楽に最初からルールなどあったのだろうか？

戦争で打ち鳴らされるドラムの音にも最初からルールがあったのだろうか？

カーニバルで私たちが踊りへとかり立てるたくさんの打楽器のリズムにも、最初からルールがあったのだろうか？

悲しい時に人間は自然に悲しい自分を慰める。嬉しい時には、嬉しいという感情を素直に表現する。そんな時に歌う「歌」が、「音楽」が、最初からルールを持ったものだったのだろうか？

みんなで一斉に力をあわせて畑仕事をしている最中に歌う歌やリズムにルールなど必要だったのだろうか？

ことばの文法がそうであったように、ルールや理論は行為とその意味を普遍化するために後から必要に迫られて作るものである。日本の音楽は、師匠が弟子へ直接教え、弟子がそれを覚えた時点で目的は達せられる。だから、理論そのものが必要なかった。と同時に、広範囲に広がっていく必要性もなかった。しかし、西洋音楽がヨーロッパ文明と同じように世界的な規模で普遍的な広がりを見せたのは、逆に、厳しいルールを作ったおかげとも言える。ヴァイオリンやフルートなどのいわゆる現在のオーケストラ楽器は、後から述べる平均律という西洋音楽の基本的ルールをもとにして作られ発展していった。だから、地球上のどの場所でも、西洋音楽を作る道具として利用可能な楽器になったのである。

しかし、三味線や琴が日本以外の土地で音楽を作り出すために利用されてきたことはない。アフリカのティンパレスという金属の先をツメで引つ掛けて

音を出す楽器も、アフリカという土地から外に出ることはなかったし(クラシック以外の音楽では少しずつ使われ始めている楽器ではあるが)、オーストラリアの先住民族アボリジニが演奏するディジリドゥという楽器(ユーカリの幹をシロアリが食い、その後の空洞を利用して音を出す楽器)もオーストラリアという土地以外で「意味」を持つ楽器ではない。

そう。音楽は楽器が作るもの。動物の骨から作られた打楽器で演奏される音楽と、スネアドラムやバスドラムで演奏される音楽では、表現するものがまったく違っていている。どう違うのかは明確だ。動物の骨という、明らかに「生物の死」が意識される道具と、まったく「死」を意識させることのないスネアドラムでは、人間と自然との関わりあい方、人間と音楽の関わり方がまったく違う。それは、どちらがいいとか悪いの問題ではない。人間の生活と自然がより密接だった時代の音楽と、自然から離れ人間の文明や文化を信じる時代の音楽では表現の意味がまったく違うのは当たり前。生物の死体から作られた楽器の出す音が「愛」を歌うことはおそらくないだろうし、性が生殖と同じ意味しか持たなかった時代に、現代的な「愛」の音楽は必要なかったというだけのことではないだろうか。

楽器が自然界の音の模倣のために作られたとすれば、そうした楽器を使って作る音楽とは、まさしく、自然との同化、自然への畏敬、そして目に見えぬ神や霊への恐れだったに違いない。そして、その楽器が、現在のような西洋音楽のルールの中で高度に洗練された楽器へと変化し始めたのは、まさしく人間が「文明」というものを作り出した時期からなのである。

(みつとみ俊郎著「音楽はなぜ人を幸せにするのか」より)

【語注】 注1 スネアドラム……小型太鼓の一種。 注2 バスドラム……大太鼓の一種。

問一 線部AとEのカタカナを適切な漢字に直しなさい。

問二 空欄(a)と(e)に補うのに最も適当な語句を次の中から一つずつ選び、その番号をマークしなさい。

a	①	もし	②	また	③	それで	④	しかし	⑤	たとえ
b	①	もしも	②	ただ	③	あるいは	④	まったく	⑤	だから
c	①	もし	②	また	③	それで	④	しかし	⑤	たとえば
d	①	もしも	②	ただ	③	あるいは	④	まったく	⑤	だから
e	①	つまり	②	ただ	③	あるいは	④	まったく	⑤	だから

問三 線部1の理由を説明した次の文の空欄に補うのに適当な部分を、本文中より一〇字以内で抜き出して答えなさい。

() 10字以内 () が存在しないから。

問四 — 線部2について次の各問いに答えなさい。

- 1 「音楽に最初からルールなどあったのだろうか」という問いに対しての答えとして最も適当なものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。
- ① ルールができてから、それを元にして音楽が作られるようになった。
- ② ルールはあったが、はじめは誰もそれを守ろうとはしていなかった。
- ③ 音楽が先にあり、それを説明するためにルールが作られた。
- ④ 音楽が先にあり、それを説明したらルールができた。

- 2 「音楽に最初からルールなどあったのだろうか」という問いの答えの根拠として最も適当な部分を次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。
- ① 西洋クラシック音楽がここまで世界的に発達してきた
- ② 音楽は楽器を作る
- ③ 人間と自然との関わりあい方、人間と音楽の関わり方がまったく違う
- ④ 西洋音楽のルールの中で高度に洗練された楽器へと変化

問五 — 線部3とはこの場合どういうことか。その説明として最も適当なものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 悲しいときに自分を慰めてくれるものではないということ。
- ② 音楽を作り出すために利用されることがないということ。
- ③ 西洋音楽を作り出すための楽器ではないということ。
- ④ はつきりとしたルールを持ち、普遍的であるということ。

問六 — 線部4を説明した文として適当でないものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 人間の生活と自然がより密接であった時代の音楽。
- ② 自然を恐れつつも、その自然と同化しようとする人たちが作った音楽。
- ③ 「愛」を歌うことが必要な人たちが作った音楽。
- ④ 自然界の音を模倣する必要に迫られた人たちが作った音楽。

問七 本文で筆者が述べていることと一致するものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 世界中の全ての音楽は普遍化することを求めており、それぞれがルールを作り、そのルールに基づいて作られてきた。
- ② ある音楽を師匠が弟子に直接教え、弟子がそれを覚えることによって、その音楽は世界的な規模での広がりを見せた。
- ③ 音楽で悲しいときに自分を慰めたり、嬉しい時に嬉しいという感情を表現したりするには、それぞれのルールが必要だった。
- ④ 音楽は楽器が作るものであり、したがって、人間の生活と自然がより密接であった時代の音楽こそが優れた音楽であった。
- ⑤ 人間が「文明」というものを作り出したことによって、地球上のどの場所においても西洋の音楽を作ることができるようになった。